

令和2年度海老名市一般会計決算の概要

みんなが笑顔 ～新たなる未来の創造～

決算の状況

() 内は対前年度比

- ◆一般会計歳入決算額 668億9,865万4,615円
(200億7,386万5,323円、42.9%の増)
- ◆一般会計歳出決算額 640億7,027万6,807円
(185億8,341万2,833円、40.9%の増)

歳入(一般会計)

() 内は対前年度比

- 市税 236億6,900万円 (8,600万円、0.4%減) ※9年ぶりに減少
 - ・個人市民税 92億6,800万円 (1億6,900万円、1.9%増)
 - ・法人市民税 13億9,900万円 (3億8,500万円、21.6%減)
 - ・固定資産税 105億5,100万円 (1億2,000万円、1.2%増)
- 国・県支出金 267億8,500万円 (160億8,200万円、150.3%増)
- 繰入金 36億4,400万円 (24億5,000万円、205.2%増)
- 市債 37億2,500万円 (7億8,600万円、26.7%増)

歳出(一般会計)

() 内は対前年度比

- 義務的経費 230億3,900万円 (16億5,000万円、7.7%増)
 - ・人件費：78億3,800万円 (9億1,300万円、13.2%増)
 - ・扶助費：121億7,800万円 (7億400万円、6.1%増)
 - ・公債費：30億2,300万円 (3,300万円、1.1%増)

人件費、扶助費及び公債費がいずれも増となり、特に人件費は、臨時の任用職員の会計年度任用職員移行などにより増額となりました。義務的経費は今後も増加が見込まれるため、財政構造の弾力性確保の点から引き続き注視が必要です。
- 普通建設事業費 54億1,600万円 (8億2,100万円、13.2%減)

普通建設事業費は、資源化センター整備事業が完了したことなどにより減少となりました。

令和2年度の主な取り組み

令和2年度は「みんなが笑顔 ～新たなる未来の創造～」をキャッチフレーズに新たなまちづくりを推進しました。

充実して暮らせるまち

防犯灯LED化整備事業 6,000万円

市民の安全を守る防犯灯のLED化を推進し、環境負荷の軽減を図りました。



LED防犯灯のイメージ

健やかに暮らせるまち

福祉法人設立準備会の設置 20万円

障がい者の暮らしと自立を独自にサポートする「福祉法人」の設立に向け、準備会を設置し、検討を進めました。



障がい者自立支援イメージ

高齢者、中学3年生インフルエンザ予防接種助成 1億1,400万円

高齢者等の自己負担をなくすことで、コロナ禍においてインフルエンザの集団感染や重症化を予防しました。

勝瀬保育園民営化、門沢橋保育園給食調理業務委託 1,400万円

勝瀬保育園民営化に向けて、選定委員会を設置し、移管先を選定しました。
門沢橋保育園の給食調理業務を委託し、安定的な給食調理体制を構築しました。



にぎわいがあり自然に優しいまち

農業基盤整備事業 2,500万円

田の畦畔除去や暗きょ排水整備工事を行い、農地の集積や農産物の生産性の向上を図りました。

プレミアム付商品券発行事業 18億2,100万円

新型コロナウイルス感染症の影響により、売上げが減少している市内事業者を支援するため、市内でのみ使用可能なプレミアム付商品券を発行しました。



プレミアム付商品券(共通券)イメージ

ごみ減量化・資源化の促進 2億6,600万円

令和元年度より実施している「家庭系ごみの一部有料化と戸別収集」を継続し、より一層の燃やせるごみの減量化、資源化の促進を図りました。



戸別収集の様子

便利で快適に暮らせるまち

(仮称)上郷河原口線アプローチ部の工事着工(継続事業) 3,600万円

海老名駅周辺道路のネットワーク化を行うため、(仮称)上郷河原口線のアプローチ部などの関連道路整備を進めています。

市道62号線延伸事業の推進(継続事業) 4,800万円

鳩川に橋を架けることにより、海老名駅西口地区のアクセス性向上を図るため、市道62号線の延伸を進めています。

厚木駅南地区市街地再開発事業の推進 5億6,800万円

組合へ補助を行い、厚木駅南地区の都市基盤及び良好な住環境の整備を推進しました。



市道62号線延伸道路イメージ

豊かな学びを育むまち

今泉小学校増築工事（継続事業） 8,200万円

児童数増加に伴う教室不足の解消を図るため、校舎増築工事に着手しました。

有馬図書館、門沢橋コミセン大規模改修工事 7億3,400万円

隣接する両施設の効果的な一体活用を目指し、来館者の利便性の向上を図るため、大規模改修工事を実施しました。

GIGAスクール構想の実現 5億8,500万円

学校教育の情報化を推進する「GIGAスクール構想の実現」を図るため、市内公立小中学校に在籍する児童生徒1人につき、1台のタブレット整備を計画的に進めました。

市内公立小中学校内の高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、学校ICT環境の充実を図りました。



有馬図書館、門沢橋コミセン内の様子(キッズテント)

安全で安心して暮らせるまち

今里出張所長寿命化工事 1,400万円

老朽化した給油施設を適正に維持管理するため、改修工事を実施しました。

消防署西分署整備事業（継続事業完了） 5億2,100万円

消防署西分署を整備し、人口増に伴う消防・救急需要の増加に対応できる環境を整え、市民が安全安心に暮らせるまちの実現を図りました。

水難救助用ボート・検知警報器等整備 900万円

多種多様な災害に対応するため、水難救助用ボートや携帯型化学剤検知警報器等を整備し、消防・防災力の充実強化を図ることで、市民の安全安心を確保しました。



消防署西分署

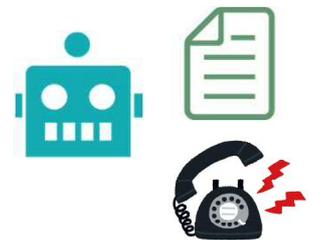
かがやきを創造するまち

RPAシステム及びAI-OCRシステムの導入 100万円

RPA(ロボットによる業務自動化)及びAI(人工知能)自動読取システムを試行的に導入し、定型的な作業を自動化することで、職員の負担軽減を図りました。

自動音声電話催告システムの導入 200万円

税の未納者に対して、自動音声の電話催告やSMS(ショートメッセージサービス)を活用した催告を行い、収納率の向上を図りました。



新たな発見ができるまち

市制施行50周年記念誌の作成（継続事業） 200万円

これまでの市の歩みや、歴史・文化、将来像、未来に向けたまちづくりなどの功績を記録に残し、後世に伝えるとともに、広くPRするため「市制施行50周年記念誌」の発行準備を進めています。



市制施行50周年記念誌イメージ

基金及び市債残高の状況

- 基金残高は67億19百万円（前年度比63百万円、0.9%の増）となりました。また、市債残高は一般会計分が283億76百万円（前年度比8億84百万円、3.2%の増）、企業会計分が123億26百万円（前年度比4億43百万円、3.5%の減）となりました。
- 市民一人当たりの基金残高は48,410円で、政令市を除く県内16市においては7番目に多い金額となる見込みです。また、企業会計分を含めた市債の市民一人当たり残高は、297,850円となり、県内16市においては最も少ない金額を堅持する見込みです。

（単位：千円）

| 区分 | 令和2年度末 | 令和元年度末 | 増減額 | 増減率 |
|-------|------------|------------|----------|-------|
| 基金残高 | 6,718,615 | 6,655,739 | 62,876 | 0.9% |
| 市債残高 | 40,702,115 | 40,261,146 | 440,969 | 1.1% |
| 一般会計分 | 28,376,178 | 27,491,744 | 884,434 | 3.2% |
| 企業会計分 | 12,325,937 | 12,769,402 | △443,465 | △3.5% |

注：特別会計で管理する基金は除いています。

財政力指数及び経常収支比率

- 令和2年度の財政力指数（単年度）は1.062（前年度比0.003ポイント増）となり、5年連続で不交付団体となりました。
- 経常収支比率は、地方消費税交付金などの経常的な収入が増加した一方で、コロナ禍で経常的な支出が減少したことなどにより、91.4%（前年度比2.5ポイント減）となりました。
- 実質収支比率は、実質収支額がコロナ禍などの影響で10億円あまり増加したことにより、7.7%（前年度比4.2ポイント増）となりました。

| 区分 | 令和2年度 | 令和元年度 | 増減 |
|--------------|-------|-------|-------|
| 財政力指数（3か年平均） | 1.059 | 1.048 | 0.011 |
| 財政力指数（単年度） | 1.062 | 1.059 | 0.003 |
| 経常収支比率(%) | 91.4 | 93.9 | △2.5 |
| 実質収支比率(%) | 7.7 | 3.5 | 4.2 |

注：実質収支比率は、決算統計に基づき算定しています。

健全化判断比率及び資金不足比率

- 健全化判断比率及び資金不足比率については、いずれの比率も国が定めた早期健全化基準を大きく下回っており、本市の財政の健全性は財政健全化法上も問題ないこととなりました。

【健全化判断比率】

| | 健全化判断比率 | 早期健全化基準 |
|----------|---------|---------|
| 実質赤字比率 | －(赤字なし) | 12.02% |
| 連結実質赤字比率 | －(赤字なし) | 17.02% |
| 実質公債費比率 | 2.8% | 25.0% |
| 将来負担比率 | 32.7% | 350.0% |

【資金不足比率】

| 公営企業会計名 | 資金不足比率 | 経営健全化基準 |
|-----------|-----------|---------|
| 公共下水道事業会計 | －(資金不足なし) | 20.0% |

お問い合わせ先

海老名市 財務部 企画財政課 電話 046-235-8453（直通）
FAX 046-233-9118 E-Mail zaisei@city.ebina.kanagawa.jp